

## 第2学年 組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 福岡市立〇〇中学校 〇〇

### 1 題材 「ライフステージに応じた住生活の快適・安全の工夫について考えよう」

#### 2 指導観

- 近年、家庭内における死亡事故の件数は、交通事故によるそれより上回っており、本来、私たちの生命や生活を守るはずの住居内で、亡くなったり負傷したりすることが多くなってきている。また一方で、平成7年の阪神・淡路大震災、16年の新潟中越地震、17年の福岡県西方沖地震、そして、今年23年3月11日に起きた東日本大震災など、日本はいうまでもなく地震多発地帯であり、住居に対する安心、安全の要求がますます高まっている。

本題材では、自分の住生活を振り返りながら、快適性や安全性の視点に立って、問題点を見出し、改善方法を考えることができるようになることをねらいとしている。学習内容としては、住居の機能、日本の住居や住まい方、生活行為と住空間の関わり、住生活の快適性、幼児や高齢者のいる家庭における住居の安全性、住居の防犯、防災などがある。

このような学習を通して、住居の快適性や安全性に関する知識を自らの住生活と照らし合わせて、その中に問題点を見出し、よりよい住生活をおくるために、工夫し改善することができるようにする。このことは、現在及び将来の住生活において、課題をもって実践しようとする態度を養うことにつながり、意義がある。

- 生徒はこれまでに、小学校家庭科において「整理整頓や清掃の仕方」「季節の変化に合わせた快適な住まい方」について学習している。

事前調査を行ったところ、掃除や整理整頓について家庭で実践している生徒は、「よくする」と「時々する」を合わせると90.5%であるという結果が得られた。しかしながら、その理由をみると、「親に言われてやった」「家事の手伝い」「部屋が散らかっていたから」という回答が多く、学んだことを実践するにあたって、自発的な行動からではないことが分かった。また、「快適な住まいのすごし方」に関しては家庭で実践している生徒は13.5%と低く、これらのことから掃除や整理整頓については必要に迫られて行うが、日々の住生活を自ら快適にしようという意識は低いことがうかがわれる。

住居の安全について、「関心をもっている」と回答した生徒は、52.9%である。しかし、実際の生活では、安全対策を具体的に実践している生徒は23.5%と少ない。また、実践していない理由として、「具体的に何をしたらよいかわからない」「家のことは親に任せている」「関心がない」などがあげられた。住居の安全については、生徒自身が実践することが難しい内容であることから、関心はややあるものの、親任せで主体的に取り組むことができていない実態がうかがわれる。このことから、住居の快適性や安全性を重視した住まい方に関する知識と実践しようとする態度を身に付けることが重要であると考える。

- 指導にあたっては、快適性や安全性について問題意識をもって、自らの住生活を振り返らせ、よりよくするためには、どのような工夫が考えられるのか、課題解決に向けた生活ができるように取り組みせたい。ここでは、模擬家族を設定し、ストーリー性のある学習活動を展開する。その際、家族の成長とともに生じる様々な住生活の課題の解決方法を探る。その過程で快適性や安全性についての基礎的・基本的な知識を習得し、模擬家族の住生活を自らの住生活に投影させるようにする。

そのためにまず、人と住居との関わりや住居の機能についての学習では、「家がなかったら困ることは何だろう」と発問することで、住居の役割について考えさせるとともに住居を学ぶ意義を知らせ、意欲を高めさせる。次に、生活行為と住空間との関わり、住居の安全性、快適な室内空間の条件について、課題解決的な学習を行う。ここでは前述の模擬家族のライフステージに応じた状況の変化（共働き夫婦、幼児のいる家族、小中学生のいる家族、高齢者のいる家族）に伴い生じてくる快適性や安全性の問題を見出し、どのような改善方法が考えられるのか、簡単な間取りや電子黒板を用いて示すことにより、想起しやすいようにする。さらに、住居の防災、防犯について考えさせる活動を設定する。日常的な対策の必要性に気付かせ、実践へとつなげようとする。その際、これまで起こった被害の状況を確認させるために視聴覚教材を用いる。最後に、快適性、安全性の視点から、理想の家を考えさせる活動を仕組む。ここでは、それまでの学習内容を振り返り、よりよい住生活をおくるために必要な基礎的・基本的な知識を活用させ、イラストや文章で表現するように指示する。

### 3 目標

- 住生活への関心をもち、住生活における快適性や安全性を高めようとする。
- ライフステージに応じた快適性や安全性を意識した住まい方の工夫ができる。
- 住生活における快適で安全な住まい方の知識を身につける。

### 4 指導計画・評価計画（8時間）

（関：関心・意欲・態度 工：工夫・創造 技：生活の技能 知：知識・理解）

学習活動・内容	留意点 ☆学びと実践をつなぐための手だて	配時	評価規準
<p>1 住生活の学習のガイダンスを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活の学習のガイダンス</li> </ul> <p>2 住居の機能と日本の住まいと住み方の特徴を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住居の機能</li> <li>・日本の住まいと住み方</li> </ul>	<p>○住居の機能を考えさせるために「もしも、家がなかったら困ることは何だろう」と発問する。発言が出にくいときは、「家でいつもしていることは何だろう」と日常生活と住まいの関わりを想起できるような補助発問をする。</p>	1	<p>関：住生活についての学習に関心をもつ。          &lt;発言チェック，          学習プリント&gt;          知：住居の機能の特徴を理解する。          &lt;ペーパーテスト&gt;</p>
<p>3 共働き夫婦（2人家族）の住居から生活行為と住空間の関わりを考える。</p> <p>(1)共働き夫婦(2人家族)の生活時間から生活行為に必要な住空間を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事（ダイニング）</li> <li>・洗面（洗面所） など</li> </ul> <p>(2)5つの空間に分類する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生理・衛生の空間・家事の空間</li> <li>・家族共有の空間 ・個人の空間</li> <li>・その他の空間</li> </ul> <p>(3)夫婦の住空間の使い方の問題点を見出し、改善方法を考える。</p> <p>&lt;問題点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活行為が重なっている（時間および場所）</li> </ul>	<p>○ライフステージに応じて、住居が変化することを理解させるためと生徒のプライバシーに配慮するために模擬家族を設定する。</p> <p>○自分の住居に関心をもたせるために「一戸建てと集合住宅のどちらを選ぶか」と発問し、理由をもって選ぶように指示する。</p> <p>○生活行為と住空間との関わりを考えさせるために夫婦のある日の生活時間を提示する。</p> <p>○模擬家族の状況や住空間が視覚的にイメージできるように電子黒板を用いる。</p> <p>○住空間の使い方の問題点を見出させるために、「夫婦が仕事をするときはどこを使いますか」と発問する。</p> <p>○生徒の将来の住生活に向けて、食寝分離を心がけるようにふれておく。</p> <p>☆学習のめあてごとに授業で学んだことを生かして、自分の家でどのようなことができるか考え、記述する場をこれから毎回設定する。</p>	1	<p>工：家族が気持ちよく住まうことができる住空間の使い方を工夫する。          &lt;学習プリント分析&gt;</p>
<p>4 幼児のいる家族(3人家族)の住居の安全性を考え、発表する。</p> <p>(1)幼児の特徴を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重心が高い</li> <li>・何にでも興味をもつ など</li> </ul> <p>(2)安全性の視点から幼児のいる家族の住居の問題点を考える。</p>	<p>○事故につながる要因としての幼児の特徴がわかるように視聴覚教材を用いて電子黒板で提示する。</p> <p>○幼児にとっての住居に関する問題点を発見しやすいように家庭内での幼児の事故に関する統計や資料を提示する。</p>	1	<p>工：場面に応じた幼児の安全性に配慮した住居のあり方を工夫する。          &lt;学習プリント分析&gt;</p>

<p>(3)改善方法を考える。</p> <p>&lt;改善例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の手の届かない所に置く</li> <li>・ 風呂のふたを閉める など</li> </ul>	<p>○家庭内事故の危険性とその対策に気付かせるため、転落、誤飲、やけど、けが等につながる可能性のある住居の状況を示したイラストを提示する。</p>		
<p>5 子どもが成長した家族(4人家族)の住居から快適性を考える。</p> <p>(1)快適な室内環境の条件について、説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就寝分離</li> <li>・ 快適性とその条件 (明るさ, 温度, 湿度, 音, 通風)</li> </ul> <p>(2)快適な室内環境の条件の視点から、教室環境を測定して結果を発表し考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るさ, 温度, 湿度, 音, 通風</li> </ul> <p>&lt;考察する内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ部屋でも場所によって明るさが異なる。</li> </ul> <p>(3)子ども部屋の問題点と快適な部屋にするための改善方法を考え、発表する。</p> <p>&lt;問題点&gt;                      &lt;改善方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るさ → 机に電気スタンド</li> <li>・ 音 → 防音壁をつける</li> <li>・ 湿度 → 防結露シート</li> </ul>	<p>○子ども部屋の問題点に気付かせるために間取りやイラストを提示する。</p> <p>○明るさ, 温度, 湿度, 騒音など快適性を実感させるためにマルチメーターを使って測定する場を設定する。</p> <p>○模擬家族の間取りの問題点を見出し, 改善方法を考えやすくするために, 室内環境の条件ごとに改善方法を考えるように指示する。</p> <p>☆「自分の家や部屋をより快適にするためには, どのような問題点と改善方法が考えられますか」と発問する。</p>	2	<p>知: 室内環境の快適性に関する条件を説明できる。 &lt;ペーパーテスト&gt;</p> <p>関: 快適な室内環境について, 関心をもって学習活動に取り組んでいる。 &lt;様相チェック&gt;</p> <p>工: 自分の家や部屋の問題点を見出し, 改善方法を考えている。 &lt;学習プリント分析&gt;</p>
<p>6 高齢者がいる家族の住居の安全性を考える。</p> <p>(1)高齢者の特徴と家庭内で起こる事故の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の家庭内事故の現状</li> <li>・ 高齢者の身体的特徴</li> </ul> <p>(2)高齢者がいる家族の住居を安全性の視点から問題点を見出し, 改善方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者にとっての危険箇所や問題点</li> <li>・ バリアフリーと設備</li> </ul> <p>(3)高齢者の視点から, 自分の家の問題点や改善方法を考える。</p>	<p>○高齢者の身体的状況が分かるように視聴覚教材を用いる。</p> <p>○問題を抱える住居の内部がイメージしやすいように写真を提示する。</p> <p>○住居内の問題点の共有化を図るために, 電子黒板を用いる。</p> <p>○高齢者に配慮された設備や住宅を知るために写真を提示する。</p> <p>☆今日の授業で学んだことを生かして自分の家でどのようなことができるかを考える場を設定する。</p>	1	<p>工: 高齢者の立場に立って自分の家の問題点と改善方法に気づく。 &lt;学習プリント分析&gt;</p>

本  
時

<p>7 住まいの防災, 防犯対策を考える。</p> <p>(1) 防犯対策の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害に合いやすい家</li> <li>・防犯グッズ</li> </ul> <p>(2) 防災対策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災による住宅の被害</li> <li>・火災報知機の設定義務</li> <li>・防災グッズ</li> </ul> <p>(3) 震災に備えて, 非常用持ち出し袋の中身を考える。</p>	<p>○被害に合いやすい家の傾向に気付かせるため, ピッキング被害の状況の資料を提示する。</p> <p>○住居内の防災対策の工夫を考えさせるため, 震災の被害状況を写真や資料で提示する。</p> <p>☆防災対策を身近なものにとらえさせるための防災用品の実物を提示する。</p> <p>☆非常用持ち出し袋の中身を考えさせるために, 震災の被害直後の生活状況を示した資料を提示する。</p>	<p>1</p>	<p>知: 防犯, 防災のための住居のあり方について理解する。 &lt;ペーパーテスト&gt;</p> <p>工: 自分の家での非常用持ち出し袋の中身を工夫する。 &lt;学習プリント分析&gt;</p>
<p>8 学習のまとめをする。</p> <p>(1) これまでの学習の振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージと住居の関わり</li> </ul> <p>(2) 自分の将来の理想の家について考え, イラストをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住居を決定する条件 (年齢, 状況, 広さ, 職場までの距離, 家賃, 生活環境など)</li> <li>・自分が望む将来の家</li> </ul>	<p>○模擬家族の成長に伴った住宅の変化に気付くことができるような図を提示したり, これまでのプリントを振り返らせさせたりする。</p> <p>○イラストのかき方の例を提示する。</p> <p>○さまざまな条件があることに気付かせるため, 実際の住宅の広告を提示する。</p> <p>○最初の時間の自分の住居に関する考えと比較しながら記述するよう指示する。</p>	<p>1</p>	<p>知, 工: ライフステージの変化に応じた自分の将来の家を考える。 &lt;学習プリント分析&gt;</p>

5 本 時 平成23年 10月12日 (水) 5校時 計画 5/8 被服室にて

### (1) 本時の指導観

本時までには生徒は住居の役割や生活行為と住空間との関わり, 幼児の住居内における安全性や快適性について学習している。そこで本時では, 高齢者の立場に立って, 模擬家族や自分の家の問題点に気づき, 改善方法を工夫できるようになることをねらいとする。そのためにまず, 高齢者の身体的特徴を確認させるために模擬家族の状況を示した掲示物を使って説明する。その際, 高齢者の家庭内の事故が死亡事故につながることや高齢者の住まいの問題点に気付かせるために, 幼児がいる家族の住まいでの学習を振り返るよう指示する。

次に, 高齢者の住居を安全性の視点から検討し, 問題点を見出させるために, 住居の平面図や写真を提示して説明する。その際, 各自で問題点を考えさせた後, 班で意見交換し発表する場を設定する。

また, 発表で出された問題点に対する改善方法を考え発表す場を設ける。ここでは, 「問題点を改善するためにすぐにできる方法を考えてみよう」と発問し, 改善方法が生徒から出にくいときは, 改善方法の例を紹介する。

さらに, 改善方法が実際に配慮されている例として, バリアフリー住宅を取り上げ, 電子黒板を使って視覚的に紹介する。

最後に, 高齢者の立場に立って安全な住まいになっているかどうか, 自分の家の現状をふりかえり, 問題点と改善方法を考えさせる場を設定し, 学びを実践につなぐ手だてとする。

